

授業科目	スイミングスキル〔AT3・MT3〕		担当教員	今井 由美子	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
					60時間
授業目的	各種泳法の基本技術を向上させ、指導員として模範となる泳ぎを習得する。効率よく泳ぐ方法を習得し、各種泳法のスピードアップを目指すことで水泳コーチ1の取得を目指す。また指導の仕方も習得し、実践能力を身に付ける。				
到達目標	水泳コーチ1を合格するための基準タイムをクリアし、泳力、テクニックを身につけ、今よりもより効率的な泳ぎができる。 到達目標③ 個人メドレーのタイムを計測し、基準タイムプラス5秒以内泳ぐことができる(第22回授業終了時) 到達目標② 指導法を理解し実践できる(第15回授業終了時) 到達目標① 4泳法を正しく泳ぐことができる(第11回終了時授業)				
テキスト・参考図書等	水泳指導教本・プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業内にて行う小テスト、レポート(提出期日、内容)、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	10			
	小テスト	80			
	提出物	0			
	その他	10			
履修上の留意事項	プールでの実技中心。必要な時はプリント配布。、各種泳法等の技術習得は、様々な指導をする上での自信になりますし、幅広く活用できます。最終目標は個人によって様々でしょうが、それぞれの目標に向かって頑張りましょう。体調を万全にして授業に臨んでください。水泳コーチ1を受験する学生は、必ず履修してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	泳法確認		
	2	能力確認	100m 個人メドレータイム計測・基本技術確認・安全水泳		
	3	各種泳法スキルアップ	Fr／持久力トレーニング／スカリング		
	4	各種泳法スキルアップ	Fr／スピードトレーニング／スカリング		
	5	各種泳法スキルアップ	Ba／持久力トレーニング／スカリング		
	6	各種泳法スキルアップ	Ba／スピードトレーニング／スカリング		
	7	各種泳法スキルアップ	Br／持久力トレーニング／スカリング		
	8	各種泳法スキルアップ	Br／スピードトレーニング／スカリング		
	9	各種泳法スキルアップ	Fly／持久力トレーニング／潜行／横泳ぎ		
	10	各種泳法スキルアップ	Fly／スピードトレーニング／潜行／横泳ぎ		
	11	泳法確認テスト	4泳法の確認テスト		
	12	指導実習	指導法実習		
	13	指導実習	個人指導		

	14	指導実習	集団指導
	15	指導法確認テスト	指導法確認テスト
	16	各種泳法スキルアップ	IM ターン／スピードトレーニング／潜行／横泳ぎ
	17	各種泳法スキルアップ	IM ターン／スピードトレーニング／潜行／横泳ぎ
	18	各種泳法スキルアップ	IM ターン／スピードトレーニング／潜行／横泳ぎ
	19	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピード持久力トレーニング、横泳ぎ、潜行、飛び込み
	20	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピード持久力トレーニング、横泳ぎ、潜行、飛び込み
	21	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピード持久力トレーニング、横泳ぎ、潜行、飛び込み
	22	タイム計測①	100m個人メドレータイム計測
	23	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピード持久力トレーニング、飛び込み
	24	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピード持久力トレーニング飛び込み
	25	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピード持久力トレーニング、飛び込み
	26	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピードトレーニング、横泳ぎ
	27	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み
	28	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み
	29	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み
	30	タイム計測②	100m個人メドレータイム計測

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	リコンディショニングⅢ 〔AT3〕		担当教員	工藤 貴彦	
対象年次・学期			必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数 60 時間
授業目的	1、2 年 生 で 学 習 し た リ コ ン デ ィ シ ョ ニ ン グ の 概 念 、 基 礎 知 識 、 各 部 位 に お け る 基 本 事 項 を 踏 ま え 、 各 競 技 ご と の 特 性 、 ス ポ ー ツ 動 作 に 応 じ た 適 応 力 、 考 え 方 を 学 習 し よ り 実 践 出 来 る よ う に な る 年代、技術レベル等によるトラブルを予想し予防出来る観察力を身につけ より高いリコンディションスキルを身につける				
到達目標	各 ス ポ ー ツ 動 作 、 今 日 に お け る 機 能 的 ・ 体 力 的 問 題 に 対 し て 、 課 題 を 解 消 す る た め の リ コ ン デ ィ シ ョ ニ ン グ プ ロ グ ラ ム 、 計 画 を 考 案 す る た め の ス キ ル を 身 に 付 け る 。 障 害 予 防 の 観 点 か ら の ア プ ロ ー チ も 併 せ て 理 解 す る				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	20	期 末 試 験 結 果 を も と に 、 受 講 姿 勢 、 出 席 率 、 小 テ ス ト な ど の 内 容 を 踏 ま え 、 総 合 的 に 評 価 す る 。 よ り 実 践 に 近 い 形 で の 実 技 評 価 を 行 い 、 知 識 は も と よ り 、 対 応 方 法 を 重 視 し ま す		
	レポート	20			
	小テスト	20			
	提出物	20			
	その他	20			
履修上の留意事項	よ り 専 門 的 に 、 よ り 実 践 的 な 話 が 続 い て い き ま す 。 経 験 し た こ と が な い 競 技 で も 機 能 解 剖 学 、 運 動 学 、 ト レ ー ニ ン グ の 知 識 を 活 用 し 、 た だ 覚 え る の で は な く 考 え 、 実 践 す る 応 用 力 が 求 め ら れ る 内 容 で す 。 少 し ず つ で も い い の で 、 理 解 を 深 め 実 践 し て い き ま し ょ う 。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業の目標、授業の進め方、注意事項など		
	2	競技種目特性に基づいたアスリハ	アスリハにおける種目特性		
	3	競技種目における動作特性と体力特性	1.陸上運動		
	4	競技種目における動作特性と体力特性	2.水泳		
	5	競技種目における動作特性と体力特性	3.サッカー		
	6	競技特性における動作と構成と体力特性	4.バスケットボール		
	7	競技種目における動作特性と体力特性	5.バレーボール		
	8	競技種目における動作特性と体力特性	6.ハンドボール		
	9	競技種目における動作特性と体力特性	7.野球		
	10	競技種目における動作特性と体力特性	8.ラグビー		
	11	競技種目における動作特性と体力特性	9.格闘技（柔道、レスリング）		

	12	競技種目における動作特性と体力特性	10.体操
	13	競技種目における動作特性と体力特性	11.スキー競技①
	14	競技種目における動作特性と体力特性	11.スキー競技②
	15	まとめ	前期のまとめ等
	16	競技種目における動作特性と体力特性	11.スキー競技③
	17	競技種目における動作特性と体力特性	11.スキー競技④
	18	競技種目における動作特性と体力特性	11.スキー競技⑤
	19	競技種目における動作特性と体力特性	12.スケート競技
	20	競技種目における動作特性と体力特性	13.テニス

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	BRSO 対策〔トレ 3・IN2・TR2・CO2〕		担当教員	高田 健介	
対象年次・学期	3 年／2 年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	安心・安全にリラクゼーションを行う為の試験対策				
到達目標	BRSO 検定合格				
テキスト・参考図書等	リラクゼーションセラピストのための教科書 ボディリラクゼーション従事者安全・安心機構 静風社				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	受講姿勢、受講態度、出欠などを総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の留意事項	検定対策で模試と解答を中心に講義をします。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	模試 1 回目	本番を想定した過去問や練習問題 1 回目		
	2	解答・解説	模試の解答・解説		
	3	実技対策	基本手技の練習		
	4	模試 2 回目	本番を想定した過去問や練習問題 2 回目		
	5	解答・解説	模試の解答・解説		
	6	実技対策	基本手技の練習		
	7	模試 3 回目	本番を想定した過去問や練習問題 3 回目		
	8	解答・解説	模試の解答・解説		
	9	実技対策	実技試験の流れの練習		
	10	模試 4 回目	本番を想定した過去問や練習問題 4 回目		
	11	解答・解説	模試の解答・解説		
	12	実技対策	実技試験の流れの練習		
	13	模試 5 回目	本番を想定した過去問や練習問題 5 回目		
	14	解答解説	模試の解答・解説		
	15	実技対策	実技試験の流れの練習		

授業科目	BRSO 対策〔トレ 3・IN2・TR2・CO2〕	担当教員 実務経験	高田健介 有：■ 無： □	鍼灸師
対象年次・学期	3 年／2 年・集中	担当教員		
授業形態		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	スイミング理論〔AT3・MT3〕		担当教員	今井 由美子		
対象年次・学期	3年／2年・通年		必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態			授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	水の特性・効果等を理解し、実際の泳ぎに結びつける。水泳コーチ1検定に必要な専門分野の知識を学び、検定合格を目指す。					
到達目標	水泳コーチ1合格に向けて、理解し述べる事が出来る。					
テキスト・参考図書等	水泳指導教本・プリント					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	各章終了後の小テスト、提出物、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。			
	レポート	0				
	小テスト	70				
	提出物	20				
	その他	10				
履修上の留意事項	各講義のテーマ毎にプリントを配布、水泳指導教本を使用し講義形式にて板書、説明を交えながら授業を展開する。、覚えることがたくさんあって大変ですが、実技のレベルアップのためにも重要な内容です。また、水泳指導をおこなう上でも必要な基本的知識なので、実際の指導に役立てられるように頑張って習得しましょう。水泳コーチ1を受験する学生は、必ず履修してください。また、まだ迷っているという学生も履修してください。実技にも役立ちます。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	ガイダンス 第1章 水泳の歴史	授業の趣旨、内容説明 1-1. 水泳の起源と発展			
	2	第1章 水泳の歴史	1-2. 日本水泳の歴史と発展			
	3	第2章 水泳指導	2-1. 水泳指導者			
	4	第2章 水泳指導	2-2. スポーツとモラル			
	5	第2章 水泳指導	2-2. スポーツとモラル 2-3. 指導法			
	6	第2章 水泳指導	2-3. 指導法			
	7	小テスト				
	8	第3章 水泳の安全	3-1. 水泳事故総論 3-2. 水泳プール事故			
	9	第3章 水泳の安全	3-2. 水泳プール事故 3-3 自然の水域における事故			
	10	第3章 水泳の安全	3-4. 水泳プールの管理			
	11	第3章 水泳の安全	3-4. 水泳プールの管理			
	12	小テスト				
	13	第4章 水泳の科学	4-1. 水泳・水中の科学			
	14	第4章 水泳の科学	4-2. 水泳のバイオメカニクス			
	15	第4章 水泳の科学	4-2. 水泳のバイオメカニクス			

	16	第4章 水泳の科学	4-3. 水泳の生理学
	17	第4章 水泳の科学	4-4. 水泳の心理学
	18	小テスト	
	19	第4章 水泳の科学	4-5. 水泳のトレーニング
	20	第4章 水泳の科学	4-5. 水泳のトレーニング
	21	第4章 水泳の科学	4-6. 水泳の医学 4-7. 水泳の栄養学
	22	小テスト	
	23	メニュー立案	個人指導
	24	メニュー立案	集団指導
	25	第5章 水泳の技術	5-1. 共通技術
	26	第5章 水泳の技術	5-1. 共通技術
	27	第5章 水泳の技術	5-2. 各種泳法
	28	第5章 水泳の技術	5-2. 各種泳法
	29	競泳競技規則	各種泳法規則
	30	小テスト	

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	三年次研究課題Ⅱ〔トレ3〕		担当教員	教員 未登録		
対象年次・学期	3年・集中		必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。					
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。					
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。			
	レポート	60				
	小テスト	0				
	提出物	20				
	その他	20				
履修上の留意事項						
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	解剖学的用語の確認	体表の区分・運動の表し方			
	2	骨・関節の構造と機能	骨の構造・関節の構造・靱帯の構造			
	3	筋・腱の構造と機能	筋に関する生理学			
	4	骨格筋の神経支配と反射	筋に関する生理学			
	5	脳（運動発現プログラム）①	運動プログラム①			
	6	脳（運動発現プログラム）②	運動プログラム②			
	7	消化器と栄養吸収	咀嚼・胃・小腸・肝臓			
	8	消化器と栄養吸収	咀嚼・胃・小腸・肝臓			
	9	呼吸器と呼吸運動	鼻腔～肺の構造と働き			
	10	循環器系と血液	心臓の構造と働き、血液			
	11	上肢帯の運動：肩・肘・手	肩関節に関する運動、肘関節に関する運動、手関節に関する運動			
	12	下肢帯の運動：足・膝	足関節の運動、膝関節の運動			
	13	体幹＋下肢帯の運動：股関節	腰椎と股関節の運動			
	14	体幹の基礎解剖と運動：頸椎	体幹の基礎解剖と運動、頸椎の運動			
	15	体幹の基礎解剖と運動：胸椎	胸椎と胸郭の運動			
	16	運動療法の基礎知識と	全身持久力とアスリハ①			

		用語	
	17	運動療法の基礎知識と用語	全身持久力とアスリハ②
	18	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ①
	19	運動療法の基礎知識と用語	身体組成とアスリハ②
	20	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント①
	21	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント②
	22	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント③
	23	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント①
	24	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント②
	25	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価①
	26	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価②
	27	物理療法と装具・インソール	物理療法
	28	物理療法と装具・インソール	リハビリテーションに用いる装具
	29	物理療法と装具・インソール	歩行と足底挿板
	30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	テーピングテクニックⅢ 〔AT3〕		担当教員	土岐 政義	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
					60時間
授業目的	競技特性に応じて求められる頻度の高い部位別・障害別テーピング法の習得を目的・目標とする。また、ATテキストの復習も兼ねる。（足部・膝・肘関節を主に復習）				
到達目標	スポーツ外傷・障害に対するテーピングが実施出来る。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	50	実技試験、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
	その他	50			
履修上の留意事項	特になし。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション／復習	授業内容説明、諸注意、その他／前年度までの復習		
	2	テーピングの復習①	非伸縮テープを用いての復習（足部・足関節）		
	3	テーピングの復習②	非伸縮テープを用いての復習（足部・足関節）		
	4	総論	スポーツとテーピング、特徴・効果・使い方の基本		
	5	足部・下肢のキネシオテーピング	①足関節捻挫 ②アキレス腱炎		
	6	足部・下肢のキネシオテーピング	前回の復習、③シンスプリント ④下腿部肉離れ		
	7	足部・下肢のキネシオテーピング	前回の復習、⑤足底筋膜炎 ⑥オスグッドシュラッター病		
	8	下肢・腰部のキネシオテーピング	前回の復習、⑦ハムストリングス肉離れ（再発予防2種類）		
	9	下肢・腰部のキネシオテーピング	前回の復習、⑧腰部の痛み（3種類）		
	10	前期復習①・試験対策	①～③の復習		
	11	前期復習②・試験対策	④～⑥の復習		
	12	前期復習③・試験対策	⑦・⑧の復習		
	13	実技試験	実技試験①		
	14	実技試験	実技試験②		
	15	実技試験	実技試験③		
	16	復習	前期の復習		

	17	テーピングの復習③	非伸縮テープを用いての復習（肘・膝関節）
	18	テーピングの復習④	非伸縮テープを用いての復習（肘・膝関節）
	19	下肢のキネシオテーピング	⑨内側側副靱帯損傷 ⑩半月板損傷
	20	下肢のキネシオテーピング	前回の復習、⑪腸脛靱帯炎 ⑫前十字靱帯損傷
	21	下肢のキネシオテーピング	前回の復習、⑬ジャンパーズニー ⑭内側上顆炎（2種類）
	22	肩・上肢のキネシオテーピング	前回の復習、⑮外側上顆炎（2種類） ⑯腱板炎
	23	テーピングの併用	非伸縮テープとキネシオテーピングの併用の実践（上肢）
	24	テーピングの併用	非伸縮テープとキネシオテーピングの併用の実践（下肢）
	25	後期復習①・試験対策	⑨・⑩の復習
	26	後期復習②・試験対策	⑪～⑬の復習
	27	後期復習③・試験対策	⑭～⑯の復習
	28	実技試験	実技試験①
	29	実技試験	実技試験②
	30	実技試験	実技試験③

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	ボランティア活動Ⅲ〔ト レ 3〕		担当教員	教員 未登録	
対象年次・学 期		必修・選択区 分		単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的					
到達目標					
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	評価内容				
	評価内容				
	評価割合				
	評価割合				
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	AT 対策 V〔AT3〕		担当教員	土岐 政義		
対象年次・学期	3 年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの資格取得に必要な知識を身につけること。					
到達目標	アスレティックトレーナー理論試験合格。					
テキスト・参考図書等	各種 AT 教本					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験		提出物や授業態度を合わせ、総合的に評価します。			
	レポート					
	小テスト					
	提出物					
	その他	100				
履修上の留意事項						
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	理論試験に向けた対策	基礎分野範囲を実施			
	2	理論試験に向けた対策	基礎分野範囲を実施			
	3	理論試験に向けた対策	基礎分野範囲を実施			
	4	理論試験に向けた対策	基礎分野範囲を実施			
	5	理論試験に向けた対策	基礎分野範囲を実施			
	6	理論試験に向けた対策	基礎分野範囲を実施			
	7	理論試験に向けた対策	基礎分野範囲を実施			
	8	理論試験に向けた対策	応用分野範囲を実施			
	9	理論試験に向けた対策	応用分野範囲を実施			
	10	理論試験に向けた対策	応用分野範囲を実施			
	11	理論試験に向けた対策	応用分野範囲を実施			
	12	理論試験に向けた対策	応用分野範囲を実施			
	13	理論試験に向けた対策	応用分野範囲を実施			
	14	理論試験に向けた対策	応用分野範囲を実施			
	15	理論試験に向けた対策	応用分野範囲を実施			
	16	理論試験に向けた対策	基礎分野範囲を実施			
	17	理論試験に向けた対策	基礎分野範囲を実施			
	18	理論試験に向けた対策	基礎分野範囲を実施			

	19	理論試験に向けた対策	基礎分野範囲を実施
	20	理論試験に向けた対策	基礎分野範囲を実施
	21	理論試験に向けた対策	応用分野範囲を実施
	22	理論試験に向けた対策	応用分野範囲を実施
	23	理論試験に向けた対策	応用分野範囲を実施
	24	理論試験に向けた対策	応用分野範囲を実施
	25	理論試験に向けた対策	応用分野範囲を実施
	26	現場に必要な指導スキルの獲得	トレーニングメニューの立案・指導
	27	現場に必要な指導スキルの獲得	トレーニングメニューの立案・指導
	28	現場に必要な指導スキルの獲得	トレーニングメニューの立案・指導
	29	現場に必要な指導スキルの獲得	トレーニングメニューの立案・指導
	30	現場に必要な指導スキルの獲得	トレーニングメニューの立案・指導

授業科目	AT 対策 V〔AT3〕	担当 教員 実務 経験	土岐 政義 有：■ 無： □	アスレティックトレーナー
対象年次・学期	3 年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	スポーツプログラマー対策 〔トレ 3・健康 2〕		担当教員	小笠原 鷹介		
対象年次・学期	3 年／2 年・集中		必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態			授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	スポーツプログラマー検定の合格及び資格取得に向けて論理的に理解する。					
到達目標	スポーツプログラマー検定の合格及び資格取得に向けて、得点平均 8 割台を目標とする。					
テキスト・参考図書等	スポーツプログラマー専門科目テキスト 必要に応じて、資料を配布					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	0	小テスト 50% その他 50%（受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 20%）			
	レポート	0				
	小テスト	50				
	提出物	0				
	その他	50				
履修上の 留意事項	教本、資料を参考に論理的に授業を進め、模擬試験で理解度を確認する。					
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	運動と健康	運動と健康			
	2	運動と健康	スポーツプログラマーの役割			
	3	フィットネス・エクササイズ の理論と実際	フィットネス・トレーニング			
	4	フィットネス・エクササイズ の理論と実際	マシーントレーニング			
	5	フィットネス・エクササイズ の理論と実際	ヘルス・エクササイズ			
	6	フィットネス・エクササイズ と健康管理	フィットネス・エクササイズと体調			
	7	フィットネス・エクササイズ と健康管理	ウォーミングアップとクーリングダウン			
	8	体力測定と評価	体力測定の方法、測定結果の処理、体力評価とスポーツプログラム			
	9	フィットネスプログラムの 実際	フィットネスプログラムの基本的 方法			
	10	フィットネスプログラムの 実際	子ども・中年のフィットネスプログラム			
	11	フィットネスプログラムの 実際	高齢者・女性・障害者のフィットネスプログラム			
	12	スポーツ相談の実際	スポーツ相談の意義、スポーツ相談の実際			
	13	確認テスト①	過去問題①、解答、説明			
	14	確認テスト②	過去問題②、解答、説明			
	15	確認テスト③	過去問題③、解答、説明			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	各種トレーニング法の理論とプログラム〔AT3〕		担当教員	天野 雅斗	
対象年次・学期	3年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
					30時間
授業目的	トレーニング指導者として、科学的根拠に基づいた、筋力トレーニングのプログラム作成をできるようにする。JATI 認定トレーニング指導者に必要な知識を習得する。				
到達目標	科学的根拠に基づいたトレーニングプログラムを作成できること。				
テキスト・参考図書等	トレーニング指導者テキスト【理論編】、【実践編】				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	レポート、小テスト、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	30			
	小テスト	60			
	提出物	0			
	その他	10			
履修上の留意事項	講義形式にて、テキストを中心に、パワーポイントなど説明を交えながら授業を展開していきます。トレーナーにとって、科学的根拠に基づいたトレーニングプログラム作成能力は必要不可欠な要素です。トレーニングを自分で実践できることは勿論、対象者のニーズに合ったプログラム作成能力が求められます。普段の授業の取り組みや小テストを中心に評価をしていきます。トレーニングプログラム作成の理解度を深めましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、トレーニング計画の立案1	授業の目的、到達目標、JATI 認定試験について、超回復、フィットネス-疲労理論、ディトレーニング		
	2	トレーニング計画の立案2 小テスト	オーバーロード、特異性、プログラム変数		
	3	筋力トレーニングのプログラム作成1	エクササイズの種類、マシンの種類、エクササイズの配列		
	4	筋力トレーニングのプログラム作成2	RM、様々なセット法、トレーニングシステム		
	5	筋力トレーニングのプログラム作成3	セットの組み方、特殊なトレーニングシステム		
	6	筋力トレーニングのプログラム作成4 小テスト	スローリフティング、スピードリフティング、専門的エクササイズ		
	7	模擬試験	JATI-ATI 模擬問題の実施		
	8	筋力トレーニングのプログラム作成ディスカッション1	トレーニングプログラムの作成1		
	9	筋力トレーニングのプログラム作成ディスカッション2	トレーニングプログラムの作成2		
10	パワー向上トレーニング理論1	パワーの概念、要素、RFD			

	11	パワー向上トレーニング理論 2 小テスト	トレーニングプログラム変数、パワー向上エクササイズ
	12	持久力向上トレーニング理論	エネルギー供給機構、適応について、プログラム作成
	13	スピード向上トレーニング理論 小テスト	アジリティ、オープンスキル、トレーニング変数
	14	総復習	後期内容の復習
	15	まとめ	定期試験に向けたまとめ

授業科目	各種トレーニング法の理論とプログラム〔AT3〕	担当教員 実務経験	天野雅斗 有：■ 無：□	JATI 認定上級トレーニング指導者(JATI-AATI)
対象年次・学期	3 年・後期	担当教員		
授業形態		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	スポーツマッサージ 〔AT3〕		担当教員	高田 健介	
対象年次・学期	3 年／2 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	スポーツの現場における安心・安全の知識とケア技術を実技を通して学びましょう				
到達目標	体表解剖を理解し、安全に人の身体を触る事ができる。				
テキスト・参考図書等	実技テストは、人の身体安全に扱える扱えるか、目的の筋肉を動かせるか。 その他は、受講態度や出席率などの平常点。				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	試験、その他(受講姿勢、理解度、出席率など)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	60			
	提出物	0			
	その他	40			
履修上の 留意事項	トレーナーズルームを使用し、毎週各部位を変えながら実技講習を行う。 生徒同士でお互いに身体を借りて、体表解剖の知識を学びながら気持ち良く普段の疲れも癒し体験しながら楽しい授業にしましょう。				
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	手技の説明、適応、禁忌など		
	2	下肢（下腿三頭筋）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	3	下肢（足底）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	4	下肢（ハムストリングス）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	5	下肢（大腿四頭筋）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	6	腰・背中・臀部（臀部）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	7	腰・背中・臀部（腰）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	8	腰・背中・臀部（背中）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	9	頸・肩・腕（肩・肩甲骨）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	10	頸・肩・腕（頸・頭）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	11	頸・肩・腕（上腕・前腕・手）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	12	頸・肩・腕（仰臥位の頸・肩）	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点		
	13	テスト対策	復習		
	14	実技テスト	個別実技テスト		
15	その他マッサージ＋実技テスト予備日	筋肉の動かし方・圧のかけ方・注意点			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	健康運動指導士対策〔AT3〕		担当教員	高田 涼介	
対象年次・学期	3 年・後期		必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数 60 時間
授業目的	健康運動指導士の資格試験に合格するための知識を付ける。				
到達目標	健康運動指導士の資格試験合格とともに、健康運動指導士に必要とされる知識を習得する。				
テキスト・参考図書等	健康運動指導士養成講習会テキスト上・下、プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	出席状況、受講姿勢等で評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の留意事項	健康運動指導士養成講習会テキストに沿って授業を展開します。 テキスト忘れには十分注意してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	【1 章】健康管理概論	教科書の内容学習、問題演習		
	2	【2 章】健康づくり施策概論	教科書の内容学習、問題演習		
	3	【3 章】生活習慣病 (NCD)	教科書の内容学習、問題演習		
	4	【3 章】生活習慣病 (NCD)	教科書の内容学習、問題演習		
	5	【3 章】生活習慣病 (NCD)	教科書の内容学習、問題演習		
	6	【4 章】運動生理学	教科書の内容学習、問題演習		
	7	【4 章】運動生理学	教科書の内容学習、問題演習		
	8	【5 章】機能解剖とバイオメカニクス	教科書の内容学習、問題演習		
	9	【6 章】健康づくり運動の理論	教科書の内容学習、問題演習		
	10	【7 章】運動傷害と予防	教科書の内容学習、問題演習		
	11	【8 章】体力測定と評価	教科書の内容学習、問題演習		
	12	【9 章】健康づくり運動の実際	教科書の内容学習、問題演習		
	13	【9 章】健康づくり運動の実際	教科書の内容学習、問題演習		
	14	【1 0 章】救急処置	教科書の内容学習、問題演習		
15	【1 1 章】運動プログラムの実際	教科書の内容学習、問題演習			

	16	【1 1 章】運動プログラムの実際	教科書の内容学習、問題演習
	17	【1 2 章】運動負荷試験	教科書の内容学習、問題演習
	18	【1 3 章】運動行動変容の理論と実際	教科書の内容学習、問題演習
	19	【1 4 章】運動とこころの健康増進	教科書の内容学習、問題演習
	20	【1 5 章】栄養摂取と運動	教科書の内容学習、問題演習
	21	問題演習	問題演習、模試の実施
	22	問題演習	問題演習、模試の実施
	23	問題演習	問題演習、模試の実施
	24	問題演習	問題演習、模試の実施
	25	問題演習	問題演習、模試の実施
	26	問題演習	問題演習、模試の実施
	27	問題演習	問題演習、模試の実施
	28	問題演習	問題演習、模試の実施
	29	問題演習	問題演習、模試の実施
	30	問題演習	問題演習、模試の実施

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	運動療法学Ⅰ〔AT3〕		担当教員	菅原 稜平	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	運動療法の基礎知識を身につけ、対象者の指導及び状況に応じ臨機応変な対応ができるレベルまで達する				
到達目標	対象者にあった運動療法（メディカル・アスレティックともに）を選択および提示・実践できるようにする。				
テキスト・参考図書等	機能解剖と運動療法 アスレティックトレーナー専門科目テキスト全般				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準		
	試験		授業への取り組み、実技テストで総合的に判断する。		
	レポート				
	小テスト	50			
	提出物	20			
	その他	30			
履修上の留意事項	運動を行いやすい服装での参加。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1		外傷・障害に対する運動療法		
	2		外傷・障害に対する運動療法		
	3		外傷・障害に対する運動療法		
	4		外傷・障害に対する運動療法		
	5		外傷・障害に対する運動療法		
	6		外傷・障害に対する運動療法		
	7		外傷・障害に対する運動療法		
	8		外傷・障害に対する運動療法		
	9		外傷・障害に対する運動療法		
	10		外傷・障害に対する運動療法		
	11		外傷・障害に対する運動療法		
	12		外傷・障害に対する運動療法		
	13		外傷・障害に対する運動療法		
	14	授業内実技テスト			
	15	授業内実技テスト			
	16	症例に対する運動療法 作成・実践			
17	症例に対する運動療法 作成・実践				

	18	症例に対する運動療法 作成・実践	
	19	症例に対する運動療法 作成・実践	
	20	症例に対する運動療法 作成・実践	
	21	症例に対する運動療法 作成・実践	
	22	症例に対する運動療法 作成・実践	
	23	症例に対する運動療法 作成・実践	
	24	症例に対する運動療法 作成・実践	
	25	症例に対する運動療法 作成・実践	
	26	症例に対する運動療法 作成・実践	
	27	症例に対する運動療法 作成・実践	
	28	症例に対する運動療法 作成・実践	
	29	授業内実技テスト	
	30	授業内実技テスト	

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	スポーツ栄養学Ⅱ〔AT3〕		担当教員	小松 信隆	
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
					30時間
授業目的	スポーツ栄養学の基本、食事からの栄養摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。				
到達目標	スポーツ栄養学の基本を理解し、様々な状況に対応した具体的なスポーツ栄養コンディショニングの計画を立てられるようになる。 また、選手の栄養評価ができるようになる。				
テキスト・参考図書等	Reference Book(公益財団法人日本スポーツ協会) 公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト 9 新ビジュアル食品成分表				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	50	講義毎の小レポートまたは小テストで45%、実習時のレポートで5%、試験50%で評価。 但し、実習時のレポート提出がない場合は他の点数に関わらず不可とする。		
	レポート	5			
	小テスト	30			
	提出物	0			
	その他	15			
履修上の留意事項	やむを得ず講義を欠席した場合は他の受講者（同グループ）より講義内容を確認の上、自習して次の講義に臨むこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	スポーツ種目の特性とエネルギー代謝①	具体的なスポーツ種目を設定し、エネルギー代謝の特性を理解し説明できるようになる。		
	2	スポーツ種目の特性とエネルギー代謝②	具体的なスポーツ種目を設定し、エネルギー代謝の特性を理解し説明できるようになる。		
	3	スポーツ選手の栄養評価	スポーツ選手の栄養評価方法について理解し説明できるようになる。		
	4	スポーツ選手の栄養指導	栄養評価した内容を基に、食事指導について理解し説明できるようになる。		
	5	調理実習ガイダンス	調理実習①②のガイダンス		
	6	献立作成①	献立作成の方法について理解し献立作成ができるようになる。		
	7	献立作成②	テーマ別の献立作成（エネルギー補給）		
	8	献立作成③	テーマ別の献立作成（身体づくり・リカバリー）		
	9	作業工程表作成①	調理実習①作業工程を作成する。		
	10	作業工程表作成②	調理実習②作業工程を作成する。		
	11	スポーツ栄養学のまとめ	1～10回の講義のまとめ		
	12	調理実習①	アスリートメニューを作成し、実際に食べた時の感覚を確認し、説明できるようになる。		
	13	調理実習①	調理実習①のまとめとレポート作成		
	14	調理実習②	アスリートメニューを作成し、実際に食べた時の感覚を確認し、説明できるようになる。		
	15	調理実習②	アスリートメニューを作成し、実際に食べた時の感覚を確認し、説明できるようになる。		

授業科目	スポーツ栄養学Ⅱ〔AT3〕	担当教員 実務経験	小松信隆 有：■ 無： □	管理栄養士
対象年次・学期	2 年・後期	担当教員		
授業形態		実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	水泳コーチⅠ対策実技〔トレ3〕		担当教員	今井 由美子	
対象年次・学期	3年／2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
					30時間
授業目的	各種泳法の基本技術を向上させ、指導員として模範となる泳ぎを習得する。効率よく泳ぐ方法を習得し、各種泳法のタイムアップを目指し、水泳コーチⅠの取得を目指す。				
到達目標	泳法を改善することで、より速い個人メドレーを泳ぐ事が出来る。				
テキスト・参考図書等	水泳指導教本・プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	小テスト、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	80			
	提出物	0			
	その他	20			
履修上の留意事項	各種泳法等の技術習得は、様々な指導をする上での自信になりますし、幅広く活用できます。最終目標は個人メドレーのタイムを切る事です。体調を万全にして授業に臨んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	能力確認①	個人メドレータイム計測・基本技術確認・横泳ぎ		
	2	能力確認②	タイム計測・基本技術確認・横泳ぎ		
	3	各種泳法スキルアップ①	Fr／スピードトレーニング		
	4	各種泳法スキルアップ②	Ba／スピードトレーニング		
	5	各種泳法スキルアップ③	Br／スピードトレーニング		
	6	各種泳法スキルアップ④	Fly／スピードトレーニング		
	7	各種泳法スキルアップ⑤	IM ターン／スピードトレーニング		
	8	タイム測定①	個人メドレータイム測定		
	9	各種泳法スキルアップ⑦	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み		
	10	各種泳法スキルアップ⑧	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み		
	11	各種泳法スキルアップ⑨	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み		
	12	各種泳法スキルアップ⑩	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み		
	13	泳法確認	個人メドレー、潜行、横泳ぎ、飛び込み		
	14	タイム測定②	個人メドレータイム測定		
15	タイム測定③	個人メドレータイム測定			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	情報基礎〔トレ3〕		担当教員	宮野 ゆかり	
対象年次・学期	3年／2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
					60時間
授業目的	ビジネスの場面に必要とされる、PC操作と情報の扱い方を学習する。				
到達目標	資料作成およびデータの整理と活用に向けて、Word・PowerPointならびにExcelの基本操作方法を理解し、場面に応じて使用できる。				
テキスト・参考図書等	授業時に適宜プリントまたはPDFを配布する。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	30	提出物、試験課題、その他（受講態度等）を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	50			
	その他	20			
履修上の留意事項	毎回の授業では、各自が使用するPCを用いて、授業時に指定する方法を用いて課題を提出することで、上記「提出物」の評価とする。 授業内容は進度によって変更になる場合があります。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーションと授業の導入	講義の進め方と試験方法、成績評価等のガイダンス		
	2	PCの基本操作	PCの基本操作やキーボードについて		
	3	Wordの基本操作	文字入力練習 編集操作		
	4	Wordの基礎	表の作成 レイアウト調整		
	5	Wordの基礎	画像の挿入 ワードアートの挿入		
	6	Wordの活用	ビジネス文書の基礎 あいさつ文		
	7	Wordの活用	印刷設定 ヘッダーフッターについて		
	8	Wordの活用	ビジネス文書 案内状の作成		
	9	Wordの活用	ビジネス文書 請求書の作成		
	10	Wordの活用	デザイン文書 パンフレットの作成		
	11	Wordの活用	デザイン文書 チラシの作成		
	12	Wordの活用	デザイン文書 はがきの作成		
	13	powerpointの基礎	シート作成とデザイン		
	14	powerpointの活用	プレゼンテーション資料の作成		

	15	情報リテラシー	AI とインターネットの安全利用
	16	Excel の基本操作	シート入力・オートフィル
	17	Excel の基礎	四則演算
	18	Excel の基礎	関数の利用（合計・平均・個数・最大値・最小値）
	19	Excel の基礎	相対参照と絶対参照
	20	Excel の基礎	関数の利用（順位付け・四捨五入・切り上げ・切り捨て）
	21	Excel の基礎	グラフの作成
	22	Excel の基礎	関数の利用（判定・表検索）
	23	Excel の基礎	データベース機能 並び替えと抽出
	24	Excel の基礎	印刷設定 ヘッダーフッター
	25	Excel の活用	集計表の作成
	26	Excel の活用	家計簿の作成
	27	Excel の活用	住所録の作成
	28	Excel の活用	名簿の作成
	29	Excel の活用	請求書の作成
	30	まとめ	Word Excel powerPoint の連携

授業科目	情報基礎〔トレ3〕	担当教員	宮野ゆかり	
		実務経験	有：■ 無：□	
対象年次・学期	3年／2年・通年	担当教員		
授業形態		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		
		実務経験		
		担当教員		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	三年次研究課題Ⅰ〔トレ3〕		担当教員	教員 未登録		
対象年次・学期	3年・集中		必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。					
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。					
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。			
	レポート	60				
	小テスト	0				
	提出物	20				
	その他	20				
履修上の留意事項						
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	下肢のスポーツ外傷・障害 1	A C L 損傷			
	2	下肢のスポーツ外傷・障害 2	P C L 損傷			
	3	下肢のスポーツ外傷・障害 3	M C L 損傷、L C L 損傷			
	4	下肢のスポーツ外傷・障害 4	大腿部打撲、膝蓋靱帯炎			
	5	下肢のスポーツ外傷・障害 5	アキレス腱断裂			
	6	下肢のスポーツ外傷・障害 6	足関節内反捻挫、偏平足障害			
	7	上肢のスポーツ外傷・障害 1	肩関節脱臼（コンタクト）			
	8	上肢のスポーツ外傷・障害 2	肩鎖関節脱臼			
	9	上肢のスポーツ外傷・障害 3	肩インピンジメント症候群			
	10	上肢のスポーツ外傷・障害 4	肘M C L 損傷			
	11	上肢のスポーツ外傷・障害 5	突き指、T F C C 損傷			
	12	体幹のスポーツ外傷・障害 1	腰椎椎間板ヘルニア			
	13	体幹のスポーツ外傷・障害 2	腰椎分離症			
	14	体幹のスポーツ外傷・障害 3	筋膜性腰痛			

	15	体幹のスポーツ外傷・ 障害 4	頸椎捻挫、頸椎椎間板ヘルニア
	16	運動療法の基礎知識と 用語	全身持久力とアスリハ①
	17	運動療法の基礎知識と 用語	全身持久力とアスリハ②
	18	運動療法の基礎知識と 用語	身体組成とアスリハ①
	19	運動療法の基礎知識と 用語	身体組成とアスリハ②
	20	再発防止と外傷予防の 動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント①
	21	再発防止と外傷予防の 動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント②
	22	再発防止と外傷予防の 動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント③
	23	再発防止と外傷予防の 動作	受傷機転とダイナミックアライメント①
	24	再発防止と外傷予防の 動作	受傷機転とダイナミックアライメント②
	25	再発防止と外傷予防の 動作	動作・姿勢の観察と評価①
	26	再発防止と外傷予防の 動作	動作・姿勢の観察と評価②
	27	物理療法と装具・イン ソール	物理療法
	28	物理療法と装具・イン ソール	リハビリテーションに用いる装具
	29	物理療法と装具・イン ソール	歩行と足底挿板
	30	まとめ・後期試験につ いて	後期まとめ・試験対策

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	外国語〔トレ 3・健康 2〕	担当教員	斉藤 恵		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修 (SB)・選択	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	外国語を学びながら言語や文化に関する理解を深め、さまざまな分野でのコミュニケーション能力を身につけるとともに、英語を将来の自分の仕事に役立てていきたいという意識を養う。				
到達目標	1) 挨拶からビジネスシーンでも使える自然な英語表現を理解する 2) 日常のやさしい会話を聞き、理解する 3) 単語を正確に理解し語彙力を高める				
テキスト・参考図書等	英会話 1000 本ノック (コスモピア) / プリント教材 / アプリ教材				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	成績評価は各ユニットの小テスト、その他授業態度等を合わせて総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	20			
	その他	30			
履修上の留意事項	グループワークが多いので、積極的な参加や学生間で協力する姿勢を高く評価します。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業の進め方、取り組み方 / 自己紹介作成、発表		
	2	chapter 1 コミュニケーション力の基礎固め 短いひとこと	unit 1-3 世界共通挨拶/初対面挨拶/出会いと別れ際の連続 Thanks		
	3	chapter 1	unit 4-6 間違いやすいあいさつ イントネーション 別れ際の定番		
	4	chapter 1	unit 7-9 出会い頭定番表現 サウンドノック 数字ノック		
	5	chapter 1	unit 10-11 スポーツジムでの模擬会話 まずはあいさつ / 名前をしっかりと伝えよう		
	6	chapter 1	unit 11 challenge 模擬会話 保険の登録/入会特典の案内		
	7	chapter 2 ひとこと + 簡単一文	unit 12-13 返事 + How about you? 褒められて Thanks プラス 1		
	8	chapter 2	unit 14-15 質問で聞き返す Spell it out! スペル伝達ノック		
	9	chapter 2	unit16- (17) Yes/No に補足 1 文プラスノック		
	10	chapter 2	unit18-19 名前を上手に伝える (日→英) 道案内の基本表現 (道を教える)		
	11	chapter 2	unit20 (日→英) 道案内の基本表現 (道を聞く) / unit 22 会話実践①道案内		
	12	chapter 2	unit 22 会話実践②③道案内		
	13	chapter 3 ひとこと + 補足の一文 (二刀流) Yes も No もどちらでも返す技	unit 23-24 ホテル定番/オンラインやり取り		

	14	chapter 3	unit 25-26 レストラン定番（オーダー編）（食事編） まとめ
	15	前期 復習	
	16	chapter 3	unit 27-28 ショッピング定番 Friend 定番ノック
	17	chapter 3	unit 30 天気や自然の質問（テンボ良く、淡々と）
	18	chapter 3	unit 33 会話実践 会話①② challenge③ はじめてのオンライントーク
	19	chapter 4 中級編Ⅰ ひとこと＋補足２文 自分の好みや身近なこと	unit 34 Do you...？ 現在形 Round 1, Round 2 and Round 3
	20	chapter 4	unit 35 Was, Did, Were...？ 過去形 Round 1, Round 2 and Round 3
	21	chapter 4	unit 36 Have you ever...？ 現在完了形 Round 1, Round 2 and Round 3
	22	chapter 4	unit 36 Have you ever...？ 現在完了形 Round 1, Round 2 and Round 3
	23	chapter 5 中級編Ⅱ ひとこと＋補足２文 情報や感想を伝える	unit 40 Who...？ ～はだれですか？ Round 1, Round 2
	24	chapter 5	unit 41What...？ ～は何ですか？ Round 1, Round 2
	25	chapter 5	unit 42 Where ...？ ～はどこですか？ Round 1, Round 2
	26	chapter 5	unit 43 When...？ ～はいつですか？ Round 1, Round 2
	27	chapter 5	unit 44 How...？ どれくらい～ですか？ Round 1, Round 2
	28	review	振り返り まとめ
	29	review	振り返り まとめ
	30	review	振り返り まとめ
	31		

授業科目	外国語〔トレ 3・健康 2〕	担当 教員 実務 経験	齊藤恵 有：■ 無： □	英会話講師
対象年次・学期	2 年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	トレーナー総合実践Ⅱ 〔AT3〕		担当教員	渡辺 舞	
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的					
到達目標					
テキスト・参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	評価内容				
	評価内容				
	評価割合				
	評価割合				
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	トレーニングⅡ〔AT3〕		担当教員	大菅 貴広	
対象年次・学期			必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数 60 時間
授業目的	自らがトレーニングを積み、自信を持って指導できる状態を目指す。				
到達目標	競技アスリート・ジュニア・シニアまで幅広い分野での指導ができることを目標とする。				
テキスト・参考図書等	JATI テキスト実践編・理論編				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	50			
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
	その他	50			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	トレーニング実践 BIG 3	ベンチプレス・スクワット・デッドリフトの実践		
	2	胸部エクササイズバリエーション			
	3	肩部エクササイズバリエーション			
	4	上腕部・前腕部エクササイズバリエーション			
	5	臀部エクササイズバリエーション			
	6	大腿部エクササイズバリエーション			
	7	パワー系エクササイズ①			
	8	パワー系エクササイズ②			
	9	体幹部エクササイズ①			
	10	体幹部エクササイズ②			
	11	ウォームアップの理論と実践①			
	12	ウォームアップの理論と実践②			
	13	ウォームアップの理論と実践③			
	14	フォームアップの理論と実践④			

	15	実技試験	
	16	ジュニアへのトレーニング指導①	
	17	ジュニアへのトレーニング指導②	
	18	ジュニアへのトレーニング指導③	
	19	シニアへのトレーニング指導①	
	20	シニアへのトレーニング指導②	
	21	シニアへのトレーニング指導③	
	22	競技別トレーニング指導①	
	23	競技別トレーニング指導②	
	24	競技別トレーニング指導③	
	25	競技別トレーニング指導④	
	26	トレーニング実践①	
	27	トレーニング実践②	
	28	トレーニング実践②	
	29	実技試験	
	30	内容未定	

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	AT 対策Ⅵ〔AT3〕		担当教員	渡辺 舞		
対象年次・学期	3 年・集中		必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態	座学		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	AT 理論試験合格を目的とする。					
到達目標	AT 理論試験合格					
テキスト・参考図書等	AT 専門科目全テキスト					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	0	授業取り組みを総合的に判断する。			
	レポート	0				
	小テスト	0				
	提出物	0				
	その他	100				
履修上の留意事項						
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説			
	2	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説			
	3	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説			
	4	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説			
	5	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説			
	6	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説			
	7	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説			
	8	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説			
	9	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説			
	10	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説			
	11	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説			
	12	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説			
	13	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説			
	14	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説			
	15	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説			
	16	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説			
	17	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説			
	18	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説			

	19	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説
	20	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説
	21	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説
	22	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説
	23	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説
	24	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説
	25	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説
	26	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説
	27	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説
	28	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説
	29	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説
	30	AT 試験対策	AT 試験問題 解答・解説

授業科目	AT 対策Ⅵ〔AT3〕	担当 教員	土岐 政義	アスレティックトレーナー
		実務 経験	有：■ 無： □	
対象年次・学期	3 年・集中	担当 教員	山岸 舞	アスレティックトレーナー、鍼灸師
授業形態	座学	実務 経験	有：■ 無： □	
		担当 教員	田中 いぶき	アスレティックトレーナー
		実務 経験	有：□ 無： ■	
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	トレーニング評価と指導 〔AT3〕		担当教員	平間 康允	
対象年次・学期			必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数 60 時間
授業目的	スポーツ選手の体力要素やトレーニング効果を適切に評価する方法を学ぶ。				
到達目標	各種評価方法を実施できるようになる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	30	定期試験，提出物，授業姿勢を総合評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	50			
	その他	20			
履修上の留意事項	座学と実技が混在する授業のため，どちらに対しても真剣な態度で臨んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス・オリエンテーション	授業概要，計画を説明する。		
	2	形態評価①	身体形態を様々な角度で評価する。		
	3	形態評価②	形態評価①のつづき		
	4	柔軟性の評価①	全身の基本的な柔軟性を評価する。		
	5	柔軟性の評価②	全身の基本的な柔軟性を改善する。		
	6	柔軟性の評価③	下肢の柔軟性を評価する。		
	7	柔軟性の評価④	下肢の柔軟性を改善する。		
	8	瞬発力の評価①	下肢の瞬発力を評価する。		
	9	瞬発力の評価②	下肢の瞬発力を改善する。		
	10	瞬発力の評価③	スプリント能力を評価する。		
	11	瞬発力の評価④	スプリント能力を改善する。		
	12	敏捷性の評価①	アジリティ能力を評価する。		
	13	敏捷性の評価②	アジリティ能力を改善する。		
	14	前期定期試験	前期授業内容について定期試験を行う。		
	15	前期のまとめ，テスト返却・解説	テストの解答を行い，前期のまとめをする。		
	16	柔軟性の評価⑤	上肢の柔軟性を評価する。		
17	柔軟性の評価⑥	上肢の柔軟性を改善する。			

	18	柔軟性の評価⑦	体幹部の柔軟性を評価する。
	19	柔軟性の評価⑧	体幹部の柔軟性を改善する。
	20	平衡性の評価①	バランス能力を評価する。
	21	平衡性の評価②	バランス能力を改善する。
	22	敏捷性の評価③	全身のアジリティ能力を評価する。
	23	敏捷性の評価④	全身のアジリティ能力を改善する。
	24	パワーの評価①	RFD を評価する。
	25	パワーの評価②	RFD を改善する。
	26	パワーの評価③	メディシンボールを用いてパワーを評価する。
	27	パワーの評価④	メディシンボールを用いてパワーを改善する。
	28	持久力の評価	全身/筋持久力を評価する。
	29	後期定期試験	後期授業内容について定期試験を行う。
	30	後期のまとめ、テスト返却・解説。	テストの解答を行い、後期のまとめをする。

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	スノーボード・スキー実習Ⅲ〔トレ3〕		担当教員	田中 いぶき	
対象年次・学期	3年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
					60時間
授業目的	スキー・スノーボードにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。 スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。				
到達目標	冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート・提出物等の状況を総合的に評価する その他は受講姿勢等で評価する		
	レポート	10			
	小テスト	0			
	提出物	10			
	その他	80			
履修上の留意事項	宿泊研修という決まりの中で、自己管理、時間管理を徹底して行う事。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	事前説明会	目的、注意事項伝達		
	2	1日目午後レッスン開始	各班に分かれ道具の特性・理論等を学ぶ		
	3	1日目ミーティング	1日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		
	4	1日目ナイター練習	1日目に学んだことを復習する。		
	5	2日目午前レッスン開始	1日目より難易度の高い事を学ぶ		
	6	2日目午後レッスン開始	1日目より難易度の高い事を学ぶ		
	7	2日目ミーティング	2日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		
	8	2日目ナイター練習	2日目に学んだことを復習する。		
	9	3日目午前レッスン開始	2日目より難易度の高い事を学ぶ		
	10	3日目午後レッスン開始	2日目より難易度の高い事を学ぶ		
	11	3日目ミーティング	3日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		
	12	3日目ナイター練習	3日目に学んだことを復習する。		
	13	4日目午前レッスン開始	各班に分かれ、検定へ向けてレッスンをする		
	14	4日目検定	今まで学んだことを踏まえて検定に臨む		
	15	4日目ミーティング	4日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	カレッジイベントⅢ〔トレ3〕		担当教員	土岐 政義	
対象年次・学期	3年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	イベントを楽しく成功させる為の方法をディスカッションを通じ企画する事を目的とする。				
到達目標	誰もが楽しめるイベントを目指す。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料を配布。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート 20% 提出物 20% その他 60%（受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 30%）		
	レポート	20			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	60			
履修上の留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。、人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	カレッジイベント内容①	イベントの内容説明		
	2	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定		
	3	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認		
	4	イベント実施	スポーツ大会		
	5	振り返り	レポート作成、提出		
	6	カレッジイベント内容②	イベントの内容説明		
	7	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定		
	8	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認		
	9	イベント実施	スポーツフェスティバル		
	10	振り返り	レポート作成、提出		
	11	カレッジイベント内容③	イベントの内容説明		
	12	役割分担	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者の決定		
	13	リハーサル	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者 当日準備		
	14	イベント実施	学園祭		
15	振り返り	レポート作成、提出			

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	水泳コーチⅠ対策理論〔ト レ 3〕		担当教員	今井 由美子		
対象年次・学 期	3 年／2 年・集中		必修・選択区 分	選択	単位数	
授業形態			授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	水の特性・効果等を理解し、実際の泳ぎに結び付ける。水泳コーチⅠ検定に必要な専門分野の知識を学び、検定合格を目指す。					
到達目標	模擬試験④で 6 割以上の点数を取る。					
テキスト・ 参考図書等	水泳指導教本					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験		小テスト、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する			
	レポート					
	小テスト	80				
	提出物					
	その他	20				
履修上の 留意事項	3 科目ある学科の模擬試験を全て 6 割以上取れるように、教本をよく読み、問題を理解しよう。					
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	小テスト	復習とまとめ			
	2	模擬試験①	模擬試験			
	3	模擬試験①解答・復習	解答・間違えた問題の分析			
	4	第 2 章 水泳指導	記述問題対策			
	5	第 3 章 水泳の安全	出題傾向の多い箇所の復習			
	6	第 4 章 水泳の化学	出題傾向の多い箇所の復習			
	7	模擬試験②	模擬試験			
	8	模擬試験②解答・復習	解答・間違えた問題の分析			
	9	特別対策①	苦手な部分の傾向と対策①			
	10	特別対策②	苦手な部分の傾向と対策②			
	11	特別対策③	苦手な部分の傾向と対策③			
	12	模擬試験③	模擬試験			
	13	模擬試験③解答・復習	解答・間違えた問題の分析			
	14	模擬試験④	模擬試験			
	15	模擬試験④解答・復習	解答・間違えた問題の分析			

授業科目	水泳コーチⅠ対策理論〔トレ3〕	担当教員 実務経験	今井由美子 有：□ 無： ■	
対象年次・学期	3 年／2 年・集中	担当教員		
授業形態		実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	スポーツ外傷学〔AT3〕		担当教員	工藤 貴彦	
対象年次・学期			必修・選択区分		単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数 60 時間
授業目的	スポーツによる外傷を専門に研究する「スポーツ外傷学」を学ぶことにより、アスレティックトレーナーとしての知識をより深め、幅広い視野と専門的知識を持ってトレーナー活動、スポーツ指導を行えるようにする。				
到達目標	各スポーツ外傷・障害の概要を説明できる。 スポーツ外傷・障害の予防策を述べることができる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	60			
	レポート				
	小テスト	20			
	提出物				
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス/スポーツ外傷学総論	講義の説明、諸注意/スポーツ外傷学とは何か		
	2	重篤な外傷(1)	頭蓋骨骨折		
	3	重篤な外傷(2)	脳損傷		
	4	重篤な外傷(3)	脳震盪		
	5	重篤な外傷(4)	脊髄損傷		
	6	重篤な外傷(5)	胸腹部外傷/大出血		
	7	確認小テスト①	過去範囲の内容		
	8	その他の外傷(1)	顔面/外傷		
	9	その他の外傷(2)	鼻/耳の損傷		
	10	その他の外傷	歯の損傷		
	11	年齢・性別による特徴	女性/成長期/高齢者に多い外傷・障害		
	12	頸部疾患(1)	頸部捻挫/バーナー症候		
	13	頸部疾患(2)	頸椎ヘルニア		
	14	前期のまとめ	前期のまとめ/試験対策		
	15	確認テスト①	前期のまとめ/試験解答・解説		
	16	その他上肢外傷・障害(1)	肩関節唇損傷/肩鎖関節症		
	17	その他上肢外傷・障害	離断性骨軟骨炎/変形性肘関節症		

	18	その他上肢外傷・障害 (3)	手指捻挫
	19	その他下肢外傷・障害 (1)	膝軟骨損傷/反復性膝蓋骨亜脱臼
	20	その他下肢外傷・障害 (2)	膝蓋靭帯炎/腸脛靭帯炎
	21	その他下肢外傷・障害 (3)	過剰骨・種子骨障害
	22	確認小テスト(2)	過去範囲の内容
	23	外傷・障害の評価/上肢 (1)	肩関節脱臼/肩鎖関節亜脱臼
	24	外傷・障害の評価/上肢 (2)	内側側副靭帯損傷/テニス肘
	25	外傷・障害の評価/下肢 (1)	ACL 損傷/MCL 損傷
	26	外傷・障害の評価/下肢 (2)	大腿部肉離れ/大腿部打撲
	27	外傷/障害の評価/体幹 (1)	筋膜性腰痛/バーナー症候
	28	外傷・障害の評価/体幹 (2)	腰椎椎間板ヘルニア/腰椎分離症
	29	まとめ	1 年のまとめ/試験対策、練習問題配布
	30	確認テスト②	1 年のまとめ

授業科目	スポーツ外傷学〔AT3〕	担当 教員	工藤貴彦	
		実務 経験	有：■ 無： □	
対象年次・学 期		担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
実務 経験				

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	トレーニングプログラムの立案と実践〔AT3〕		担当教員	梅川 大祐	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	トレーニング指導者として、科学的根拠に基づいた、トレーニングのプログラム作成をできるようにする。 現場での安全かつ効率的なトレーニングプログラムの実施を出来るようにする事。				
到達目標	さまざまな現場でのトレーニングテクニックの実践能力を向上させること。				
テキスト・参考図書等	アスレティックトレーナー専門科目テキスト：検査・測定と評価 アスレティックトレーナー専門科目テキスト：コンディショニング				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	20			
	レポート				
	小テスト	40			
	提出物				
	その他	40			
履修上の留意事項	パワーポイントなど説明を交えながら授業を展開し、実践も加えて学びを深めていきます。トレーナー、インストラクターにとって、科学的根拠に基づいたトレーニングプログラム作成能力は必要不可欠な要素です。この授業を通じて、「分かる」ことの楽しさや、「できるようになる」ことの充実感を味わってほしいと思います。普段の授業の取り組みや小テストを中心に評価をしていきます。理解度を深めましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業内容確認		
	2	身体評価	アライメント評価/ランドマーク評価		
	3	間接可動域測定/筋力検査	各測定を実施		
	4	筋パワー/筋持久力の評価	各方法の確認と実施		
	5	敏捷性/バランス機能の評価	各方法の確認と実施		
	6	W-up/リカバリー①	W-up/リカバリーの目的と活用方法		
	7	W-up/リカバリー②	各現場における W-up/リカバリーの立案と実践		
	8	W-up/リカバリー③	各現場における W-up/リカバリーの立案と実施		
	9	トレーニングプログラムの立案と実施①	トレーニングプログラムの立案と実施		
	10	トレーニングプログラムの立案と実施②	トレーニングプログラムの立案と実施		
	11	トレーニングプログラムの立案と実施③	トレーニングプログラムの立案と実施		
	12	前期まとめ	アライメント評価～プログラムの立案まで		
	13	前期復習	復習		
14	前期期末試験	各現場におけるトレーニングプログラムの立案と実践			

	15	前期期末試験	各現場におけるトレーニングプログラムの立案と実践
	16	期末試験	プログラム立案、実践
	17	各世代におけるトレーニングプログラム②	高齢者/子供
	18	各世代におけるトレーニングプログラム④	女性/障がい者
	19	各世代におけるトレーニングプログラム⑤	女性/障がい者
	20	各世代におけるトレーニングプログラム⑥	女性/障がい者
	21	ケーススタディ①	トレーニングプログラムの立案と実践①
	22	ケーススタディ②	トレーニングプログラムの立案と実践②
	23	ケーススタディ③	トレーニングプログラムの立案と実践③
	24	ケーススタディ④	トレーニングプログラムの立案と実践④
	25	ケーススタディ⑤	トレーニングプログラムの立案と実施
	26	後期まとめ	各年代のプログラム～立案まで
	27	後期復習	後期の復習
	28	後期期末試験	状況に合わせたトレーニングプログラムの立案と実践
	29	後期期末試験	状況に合わせたトレーニングプログラムの立案と実践
	30	後期期末試験	状況に合わせたトレーニングプログラムの立案と実践

授業科目	トレーニングプログラムの立案と実践〔AT3〕	担当教員 実務経験	梅川大佑 有：■ 無：□	アスレティックトレーナー、健康運動指導士、JATI-ATI
対象年次・学期	3 年・通年	担当教員		
授業形態		実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	トレーナー総合実践Ⅰ 〔AT3〕		担当教員	渡辺 舞		
対象年次・学期	3年・集中		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	トレーナー現場に帯同し、必要に応じて検査・測定と評価が出来ることを目的とする。					
到達目標	トレーナー現場で検査・測定と評価を実施し、選手に説明出来ることを目標とする					
テキスト・参考図書等	公認ATテキスト					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準			
	試験	0	「トレーナー実習報告書」の提出をもって、活動状況を確認、評価を判定する。			
	レポート	0				
	小テスト	0				
	提出物	0				
	その他	100				
履修上の留意事項	特になし。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	トレーナー総合実習	アスレティックトレーナーに必要な評価、プログラム立案、指導について総合的に実践する			
	2	トレーナー総合実習	アスレティックトレーナーに必要な評価、プログラム立案、指導について総合的に実践する			
	3	トレーナー総合実習	アスレティックトレーナーに必要な評価、プログラム立案、指導について総合的に実践する			
	4	トレーナー総合実習	アスレティックトレーナーに必要な評価、プログラム立案、指導について総合的に実践する			
	5	トレーナー総合実習	アスレティックトレーナーに必要な評価、プログラム立案、指導について総合的に実践する			
	6	トレーナー総合実習	アスレティックトレーナーに必要な評価、プログラム立案、指導について総合的に実践する			
	7	トレーナー総合実習	アスレティックトレーナーに必要な評価、プログラム立案、指導について総合的に実践する			
	8	トレーナー総合実習	アスレティックトレーナーに必要な評価、プログラム立案、指導について総合的に実践する			
	9	トレーナー総合実習	アスレティックトレーナーに必要な評価、プログラム立案、指導について総合的に実践する			
	10	トレーナー総合実習	アスレティックトレーナーに必要な評価、プログラム立案、指導について総合的に実践する			
	11	トレーナー総合実習	アスレティックトレーナーに必要な評価、プログラム立案、指導について総合的に実践する			
	12	トレーナー総合実習	アスレティックトレーナーに必要な評価、プログラム立案、指導について総合的に実践する			
	13	トレーナー総合実習	アスレティックトレーナーに必要な評価、プログラム立案、指導について総合的に実践する			
	14	トレーナー総合実習	アスレティックトレーナーに必要な評価、プログラム立案、指導について総合的に実践する			

[illegible]

授業科目	トレーナー総合実践Ⅰ 〔AT3〕	担当 教員 実務 経験	山岸舞 有：■ 無： □	アスレティックトレーナ ー、鍼灸師
対象年次・学 期	3 年・集中	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	コミュニケーションⅢ 〔AT3〕		担当教員	田中 いぶき	
対象年次・学期	3年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	社会人として「どうあるべきか？」を理解し、すぐ実践できることを目的とする。				
到達目標	2年次からの積み上げとして、社会人としての在り方を確認し実践できることを目標とする。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて、資料を配布する。				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	レポート 20％ 提出物 20％ その他 60％（受講姿勢、受講態度等 30％、担当所見 30％）		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の 留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。				
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	就職活動に向けて①	履歴書の記入方法		
	2	就職活動に向けて②	自己分析 自分の強み、弱さ、今後どのように成長していくか、どのような職業人でありたいか		
	3	就職活動に向けて③	業界研究 進みたい分野における調査		
	4	就職活動に向けて④	就職情報サイトの利用方法		
	5	面接試験に向けて①	心構え、様々な面接試験について		
	6	面接試験に向けて②	入退室、面接試験体験①		
	7	面接試験に向けて③	入退室、面接試験体験②		
	8	一般常識①	漢字（読み・書き）		
	9	一般常識②	丁寧語、敬語		
	10	一般常識③	挨拶、接遇		
	11	一般常識④	マナー、一般常識（応用）		
	12	一般常識⑤	ペア対話、グループ対話		
	13	まとめ①	確認テスト（読み・書き・丁寧語・敬語）		
	14	まとめ②	確認テスト（挨拶・接遇）		
	15	まとめ③	確認テスト（マナー・一般常識応用）		

授業科目	コミュニケーションⅢ 〔AT3〕	担当 教員 実務 経験	土岐政義、小笠 原鷹介 有：■ 無： □	スポーツ指導者
対象年次・学 期	3 年・集中	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

授業科目	三年次研究課題Ⅲ〔トレ3〕		担当教員	教員 未登録		
対象年次・学期	3年・集中		必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態			授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。					
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。					
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	レポートや提出物等の状況を総合的に評価する。			
	レポート	60				
	小テスト	0				
	提出物	20				
	その他	20				
履修上の留意事項						
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	チームワーク①集団とチーム	チームワークと集団の違い、チーム形成のプロセス			
	2	チームワーク②チームミーティング	チームミーティング 役割を分担の理解と相互依存関係について			
	3	チームワーク③チームビルディング	チームビルディングの概要と効果的なアプローチ			
	4	心理的サポートの必要性	心理サポートを求める選手の特徴と傾向			
	5	指導者による心理的サポート①非言語表現	非言語的・準言語コミュニケーションの理解と実際			
	6	指導者による心理的サポート②言語表現	言語的コミュニケーションの理解と実際			
	7	指導者による心理的サポート③演習	コミュニケーションを用いた演習・傾聴スキルとは			
	8	スポーツカウンセリング①基本姿勢	カウンセリングの基本姿勢、アセスメント・ラポールについて			
	9	スポーツカウンセリング②質問他	質問のねらいと種類、感情の転移・逆転移の理解			
	10	心のコンディショニング①覚醒水準の違い	最適な覚醒水準の違い・ピークパフォーマンスについて			
	11	心のコンディショニング②セルフモニタリング	セルフモニタリングの種類・最適な自分の情動状態を知る			
	12	発育発達の心理①	ジュニア期特徴と対応、学習理論について			
	13	発育発達の心理②	思春期の対応と青年期以降の対応			
	14	メンタルマネジメント、ストレスと認知変	ストレスの概要、ABC理論について			

		容	
	15	メンタルトレーニングの活用の実際	メンタルトレーニング活用方法とサポートの実際
	16	研究課題①	
	17	研究課題②	
	18	研究課題③	
	19	研究課題④	
	20	研究課題⑤	
	21	研究課題⑥	
	22	研究課題⑦	
	23	研究課題⑧	
	24	研究課題⑨	
	25	研究課題⑩	
	26	研究課題⑪	
	27	研究課題⑫	
	28	研究課題⑬	
	29	研究課題⑭	
	30	研究課題⑮	

[illegible]

担当 教員 実務 経験		
--------------------------	--	--

授業科目	JATI トレーニング指導者 対策〔AT3・MT3・AT2・ MT2・IN2・CO2・SB2〕		担当教員	菊地 健太	
対象年次・学 期	3 年／2 年・集中		必修・選択区 分	必修 (PHⅢ・ TRⅡ)・選択	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導の専門家として活動する為の知識を学ぶ。				
到達目標	対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要とされる知識を習得し、JATI トレーニング指導者の資格試験に合格する。				
テキスト・ 参考図書等	トレーニング指導者テキスト理論編／トレーニング指導者テキスト実践編／その他配布プリント等				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準		
	試験	0	その他(受講姿勢等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の 留意事項	各章に対しての出題				
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 1	トレーニング指導者論／各種トレーニング法の理論 とプログラム（筋力・パワー持久力）		
	2	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 2	各種トレーニング法の理論とプログラム（スピー ド・柔軟性・特別な対象）		
	3	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 3	各種トレーニング法の実際（筋力トレーニングの実 際）		
	4	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 4	各種トレーニング法の実際（パワー・持久力・スピー ド・柔軟性向上）		
	5	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 5	トレーニングの効果の測定と評価（測定データの活 用）		
	6	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 6	体力総論／機能解剖／バイオメカニクス／運動生理 学／栄養		
	7	JATI 認定トレーニング 指導者 練習問題 7	運動と栄養／運動と心理／運動と医学／運度指導の 科学		
	8	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 1	一般科目 1		
	9	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 1	専門科目 1		
	10	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 2	一般科目 2		
	11	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 2	専門科目 2		
	12	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 3	一般科目 3		
	13	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 3	専門科目 3		

	14	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 4	一般科目 4
	15	JATI 認定トレーニング 指導者 模擬試験 4	専門科目 4

授業科目	JATI トレーニング指導者 対策〔AT3・MT3・AT2・ MT2・IN2・CO2・SB2〕	担当 教員 実務 経験		
対象年次・学 期	3 年／2 年・集中	担当 教員	大菅貴広	トレーニング指導者
授業形態		実務 経験	有：■ 無： □	
		担当 教員	菊地健太	トレーニング指導者
		実務 経験	有：■ 無： □	
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
		実務 経験		
		担当 教員		
実務 経験				

担当 教員 実務 経験		
----------------------	--	--

